

【研究ノート】

労働の嚟　働かざる者、学ぶべし

増田辰良

研究ノート

労働の噺 働かざる者、学ぶべし

増田辰良

— わたし、読書が好きでしてね。毎年、二百五十冊ほど読みます。金額にすると、およそ四十数万円ほどになります。蔵書は増えるわ、家計は圧迫するわ、それに比例して女房からの文句は増えるわ。で、家の中じゃ孤軍奮闘してますよ。はい。で、ですねえ。最近、『未来職安』という単行本を読みました。これはある大学の先生が書いたものです。

今は、学術研究(学問)で得た知識と経験をベースにした小説(文学)を書く研究者が増えてます。学者小説なんて呼ぶ方もいます。芥川賞や三島由紀夫賞の候補者にも、そんな研究者の名前が出てきますよ。作家になる人の学歴も高いですよ。文系といわず理系の大学院を修了されて博士号を取得されてる方の中にも純文学やエンタメ、シヨートシヨートに幻想、SFなんかを書いている方もいます。

でも、こんな幾つもの草鞋(わらじ)を履く研究者は昔もいましたよ。実存主義哲学を代表するサルトルは「嘔吐」という小説を書きましたし、記号学者のウンベルト・エーコは『薔薇の名前』に記号論や中世哲学の知見を書き込んでいます。

で、『未来職安』ですが、これはAI(人工知能)の進化によって、人間の仕事が機械に奪われてしまった未来の社会を描いています。その社会では、人間は消費活動のみをし、生産活動はしません。生産活

動はすべてAIロボットがします。余分に金が欲しい人間は生産者となり、働くことになりましたが、その仕事を職安(ハローワーク)で斡旋してもらいます。その職安も民間企業で運営されてましてね、人間に仕事を紹介するんですが、これが、ユーモアのある描き方になつてはいるんですが……ども、未来の人間のことが心配になつてしまいましたあ。そんなわけであ、今日の噺は人工知能に関する知識をご披露するというお堅い内容になっていきます。なので、格拉グラグラと笑わないで、みなさんも五十年後、百年後の社会を想像しながらお聴きください。いつものように物知りの先生のところへ大工の棟梁がやってきました。

棟梁 先生。今日は教えて欲しいことがあつて伺いました。いや、今日も、かな。へっへっへっ。

先生 はい。わたしに分かることであれば、なんなりと。

棟 じゃあ、お言葉に甘えさせてもらつてえ、ですね、このところAIという言葉をよく耳にしますけどお、これってなんですか？ AI憎、あつしにはわかりませんので。へっへっへっ。

キーワード：労働、AI、ヒューロ、ベーシックインカム。

先 AI。そうですねえ。西暦二〇〇〇年になったところから、頻繁ひんぱんに見たり聞いたりしてますね。

棟 で、なんなんですか？ このAIって。答えられないと、先生といえども、チコちゃんに叱られますよ。へっへっへっ。

先 チコちゃん？ は？

棟 五歳の女の子ですよ。

先 五歳？ さて、どこにお住まいですか。

棟(怒) NHKですよ。えーっ？ もしかして……先生、ご存知ないのですか！

先 はい。面目めんぼくない、知りません。

棟 マジすつか！ 今、超人気者ですよ。

先 で、なんと叱られますかね？

棟 Don't sleep through life.

先 ほ。これはこれは、英語できましたかあ。棟梁も隅に置けませんねえ。

棟 じゃあ、もっと真ん中へ出ましょうか。へっへっへっ。

先 出なくてえ、いいです。うくん。ボクと、生きてんじゃねーよ！

棟 ピンポーン！ 正解です。さすがはインテリア、いやインテリですなえ。

先 棟梁こそ、英語を……。

棟 実はあ、へっへっへっ、字幕を観て覚えてましたあ。へっへっへっ。

先 そうですかあ。

棟 ああ。そんなことより、AIって？

先(笑) はいはい。まかせてください。AIとは英語の Artificial Intelligenceアーティフィシャルインテリジェンスの頭文字をとったもので、日本語に訳すと人工知能です。字のごとく、人間が作った知能、つまり脳ミソってことですよ。

コンピュータを動かすプログラムの一種ですね。

棟 ほ。脳ミソですかあ。で、その脳ミソ、プログラムがどうかしたんですかあ？

先 つまり、人間と同じように知性をもって、行動できるロボットが作られている、近い将来、作れるということですよ。

棟 ほ。人間と同じ……それはいつです？

先 はい。二〇四五年だと言われています。この年をシンギュラリティ(技術的特異点)という言葉で表現しています。これは二〇〇五年にアメリカの研究者が本の中で紹介し、それ以降話題になってきました(注1)。

棟 へ。シンジラレナイ。へっへっへっ。

先(咳払い) んんっ。今のところは特定のパターン化された課題をこなす「特化型AI」が主流ですが……。

棟 トンガッタ、AI？

先 いいえ。

棟 トッカア・ガッタア、AI？

先 いえいえ。

棟 トグワガッタア、AI？

先 違います。

棟 トンガから来たAI？

先 来ません。とつか・がた・AI、です。ゆっくり、はい、どうぞ。

棟 とつか・がた・AI、ですかあ？

先 はい、そうです。

棟 あり。良かったあ。どうなることかと思いましたよ。このまま、トンガッタ、AI、って言えないまま人生を終わるのかと心配しましたあ。

先 んんつ。たとえば、超高速の計算機をイメージしてください。将棋や囲碁の AI ロボットもそうです。

棟 なるほど。じゃあ、人間の知性をもつ AI は……。

先 それは「汎用 AI」と呼ばれています。人間のようになんでもできるという AI です。

棟 そうですかあ。人間と同じことができるのなら、創造性を問われる芸術、たとえば作曲をしたり、小説を書いたり、なんかできるのですか？

先 うまいかどうか、感動を受けるかどうか、は分かりませんが、作曲もパターン化した曲なら作ると思いますよ。

棟 でも、それって芸術ですかねえ。

先 芸術を、どう定義するかにもよりますが……。

棟 ほく。どうなんです？ AI の創造性は？

先 はい。芸術とは一定のパターンを熟知した上で、そこからはみ出す創造力の結晶であると定義する限り、いまだ芸術の域には達していない、と言えるでしょう。

棟 (笑) ああ、安心しましたあ。じゃあ、小説はどうですか？

先 小説については AI がすでに書いています (注 2)。

棟 ええっ！ 書いている。

先 それに AI が創作した作品を公募している文学賞もありますよ (注 3)。

棟 じゃあ、将来、AI が書いた小説が芥川賞を受賞するってこともありですか？ 「もろといたらあ」とか、言つて。へっへっへっ。

先 AI 自身が書いたのであれば、著作権は AI にありますので、それも可能です。

棟 汎用 AI だと、そんなこともできるってことですねえ？

先 はい、可能性はあります。でも、人間が AI に色々と条件を指定して書かせたものであれば、それはあくまでも人間が作った作品となります。漫才だって……。

棟 えっ？ 漫才って？

先 はい。お題を入力すると膨大な情報を使って、四分程度の漫才を一分で作る初歩的な AI もあります (注 4)。

棟 ほく、漫才を。じゃあ、今書いているこの原稿も作れるってことですね。

先 そうです。この程度の脚本であれば作るでしょうね (笑)。

棟 ははあ。汎用 AI と人間との違いはどこにありますかねえ？

先 今現在であれば、AI は言葉の意味が理解できません。また、人間が持っている感覚や感情、欲望も備えていません。感情がありませんので、共感し合うということもできません。

棟 AI なんて名乗っている、じゃあ、愛情はないのですね。へっへっへっ。

先 はい。残念ながら、その感情はないです。

棟 あら、残念ながら、なんてえ、先生、プログラムに恋をしてどうしようとしてるんですか。

先 んんつ。それに想う方の想像ですが、人間なら容易に想像できる能力がまだ身に付いていません。

棟 想像するって、どんな能力です？

先 たとえば、棟梁は鳩と聞けば何を連想しますか？

棟 ♪ ポップポップ ♪ の鳩といえば平和の象徴をイメージします。先 でしょう。日本庭園にある枯山水や苔を見ると、侘び寂びを感じますよ。

棟 はい。(笑) ピリッとワ・サ・ピ。

先 んんっ。日本人なら “古池や蛙飛び込む水の音” と詠めば、風流を感じますよね。

棟 風流。なんとも表現しづらい心模様のようなものですかねえ。

先 そうです。こんな能力は今のところ AI には備わっていません。でも、汎用 AI が進化すると可能になるそうなんですよ。

棟 …… (うわの空で) なるほどお。今、思いついたのですが、その汎用 AI が進化して普及すると、人間の数は少なくともいいわけですね……少子化時代に適ってますよね。

先 いいえ。一気にそうはならなくて、AI と人間との代替性の程度によるでしょうね。

棟 だ・い・た・い？ どういうことです？

先 はい。AI はコンピュータを動かす単なるプログラムの一つですから、歴史を見ると分かるように、算盤に代わって電卓、電卓に代わってコンピュータ、馬車に代わって車、固定電話器に代わって携帯電話が使われています。

棟 うんうん。技術の進歩によって、みんな取って代わられてきましたあ。

先 しかし、今でも、どこかで算盤も電卓も馬車も固定電話器も使われていますよね。無くなつてはいないでしょ。

棟 電卓なら、あつしも使ってますよお。それにスマホのバッテリーが切れると困るので、電話急げ、ってなもんでえ (笑)、家には固定電話器もあります。

先 んんっ。ですから、AI と人間との代替性が強ければ、人間は AI との競争に負けて、労働市場から退出せざるをえません。そんなこともあり得ます。

棟 どんな仕事です？

先 はい。すでにスーパーなどのレジ係りは機械に取って代わられてますよね。バスやタクシーの運転手も自動運転になると、不用です。レストランのシェフも……。

棟 えっ？ シェフもですかあ？

先 はい。イギリスでは二千種類もの料理を作る AI シェフも販売されるそうですよ (音)。でも、心配はご無用です。これらの職を失った人間は別の仕事に就けばいいわけですから。

棟 なるほどお。だ・い・た・い、分かりましたあ。でも、進化するとお、汎用 AI は人間の知性をもつわけだから、人間との代替性は一層強くなる。人間は完璧に AI に負けろ。事実、囲碁や将棋では負けました。相手は機械ですから、人間は対抗できませんよ。

先 そうとも限りません。棟 なぜ？

先 混同しないでくださいよ。囲碁や将棋の AI は石や駒の動く無数のパターンを覚えていただけなので、特化型 AI です。

棟 (頭を掻きながら) そのところを、もう、ちよちよと詳しく……へっへっへっ。

先 はい。特化型 AI が得意なのは、目標が明確な課題について、膨大なデータ、これをビッグデータと呼んで……。

棟 ビッグデータ？

先 いいえ、ビッグ、データです。

棟 ビッグ、データ。

先 そのビッグデータに基づいて課題の結果を左右する重要な要素は何かを自ら判断し、目標をクリアするための答を見つけ出すことなのですよ。

棟 なるほどお。あくまでもデータを分析して、答を見つけることに

特化している。

先 そうです。だから、人間の手や知性を必要とする作業については特化型AIを利用し、人間の知性に代わりうる作業は汎用AIを利用するというAIの並存が続くでしょうから、人間の行動や思考がすべてAIに負けるわけじゃありません。

棟 そんなら、平気な顔して言いますがねえ、知性のある先生はいいでしょうよ。知性に欠けるあつしなんかは。

先 棟梁だけの問題ではありません。

棟 はい。だからあ、知性をもつ汎用AIが二〇四五年には主流になるでしょ。たぶん……。

先 たぶん……人間は働かなくてもよくなるんじゃないか？ 労働の

苦痛から解放されるんじゃないか、って言いたいのでしょ(笑)。

棟 そうです。ズボンです。いや、ドボン。いやいや、凶星^{ズボシ}です。憲

法二十七条には「すべて国民は、勤労の権利を有し、義務を負ふ」と規定されていますよ。働きたくても働かなくていい、働く必要

はなし。権利も義務もなし。こりゃあ、いよいよ憲法改正だな(笑)。

先 深刻に考えないことです。人間の労働がすべてAIに代替される

わけじゃ、ありませんから。さつきも話しましたが、AIと補充しな

ければならない作業もありますしね。例えば、データを入力するの

は人間で、それをAIが計算するとか。どだい、AIの電源を入

れたり切ったりするのは人間ですから、主役はあくまでも人間です

(笑)。

棟 いえ、ねえ。極論ですよ。へっへっへっ。

先 ……。

棟 (思案気に)働かなくてもいいということになるとお、心配事が三つありますねえ。

先 心配事ですか。さて、どんな心配事でしょうか。

棟 はい。働かないわけだから、所得がない。人間はどうやって食っていくのですかあ。全員が生活保護を受けるのかあ？ えっ？

先 はい。

棟 はい、って、先生、あなた、涼しい顔して言いますがあ、財源をどう確保するのです？ 今でも政府は赤字でピーピー言ってるのに。いや、PB(プライマリバランス)かあ(注6)。

先 財源については後で答えるとして、ここでは生活保護とは呼びないうで、ベーシックインカムという所得再分配政策を導入すればいいという研究者もいます。

棟 ベーシックインカム？

先 はい。赤ちゃんから高齢者まで国民一人一人に最低限の生活費を

給付するのです。

棟 給付？ ちなみに幾らくらい貰えますか？

先 今現在だと一人月七万円くらいと言われています。

棟 老齢基礎年金くらいかあ。それから優秀なAIを持つ人と持たない人との間で所得格差が拡大しませんか？

先 もちろん、AIの所有の有無によって所得格差は拡大するでしょう。

棟 するでしょう、って、また暢気なこと言ってます。これだから、

困るなりインタリア、いやインタリは。

先 AIをイメージしやすいIT系の企業、産業界での所得が大きく膨

らんでいますが、一時期ITバブルとも呼ばれましたよね。

棟 突然、なんですかあ。ITだなんて。AIのシリトリですかあ。

じゃあ、Tであれば、Tatsuyoshiで、どうです？

先 はっ？ なんですか、その、た・つ・よ・し、って。

棟 はい、あつしの名前です。どうも。へっへっへっ。

先 シリトリではありませんよ。コンピュータを使ってネット上で商売をしている……。

棟 はいはい、よく、知ってます。ちょっと聞き疲れたので、シャレてみました(笑)。

先 んんっ。そうでしたか。で、たくさん稼いでいる人間、企業、産業からはたくさん税金を徴収するという現行の累進課税制度を強化すれば、さっきのベーシックインカム^①の財源は確保できます。特に、心配することはありません(笑)。

棟 なるほどお。IT系企業はAIを駆使して稼いでいるし、社員は額に汗して働いているようでもないし、特化型AIと汎用AIが混在しているふうに思えます。

先 でしょ。これからはAIを動かすプログラムを創ったり、それをロボットに搭載したり、操作する高度な能力を持っているか、持っていないか、が所得格差の根源になるかもしれないよ。

棟 なるほどお、そっかあ。最後の心配事ですが、汎用AIが普及した後、われわれ人間はどんなふうに生きていけばいいのですか？

先 棟梁もいよいよ哲学者ですね(笑)。

棟 だってえ、そうでしょ。働かなくてもいいわけだから、従来の労働観や人生観を考え直さないことには……。

先 その答えは古代ギリシャにあります。

棟 プラトン、アリストテレス、オリンピック発祥の地、のギリシャですね。

先 そうですね。古代ギリシャでは働く奴隷と、それを使う主人との身分関係が明確になっていました。これからの時代はAIが奴隷です。労働はすべてAIに任せます。

(六)

棟 じゃあ、主人である人間は？

先 人間は働く意思を持たない有閑階級となりますので、政治や芸術、学問、スポーツなどにいそむことができます。

棟 ほー、ほー。働く意思を持たない。閑なものだから、与太話をしてプラプラとボウフラのように生きている、あれですかねえ。

先 あれって？

棟 落語の中で「今日はー」なんて、出てくるやけに気障^{きざ}っぽい若旦那^{わかだんな}のように。

先 いいえ。それでは親の脛^{むね}を齧^かるア太郎にしかすぎません。もつと先のことを考えて行動しなければなりませんよ。

棟 もつと先といいますとお。

先 はい。今から三〇〇年後には、人間(human)とロボット(robot)とが融合したヒューロ(huro)という新種の生物が創られるという研究者もいます^(注7)。

棟 さつきは心配しなくていいと言ったくせに。そのうえ、新種のヒーロが出てくるなんて。

先 ヒーロじゃなくて、ヒューロ、ヒューロです。

棟 ヒューロ？

先 そう、ヒューロです。このヒューロになると、汎用AIの能力を超えて、人間と同じように知性や自意識を持ち、欲望や嫉妬の感情も持ちます。ですから、自分の意思で次世代のロボットを開発できる能力を持つ可能性があるとも言われています。

棟 ロボットがロボットを創る。まさにSFの世界じゃないですか。

先 それもありうるということです。ですから、今のところ、人間はAIを自分や社会のためにどう役立てるのか、という意味決定に携わることとなります。

棟 もっと具体的に言ってくださいよ。

先 はい。人間にとって知的好奇心を充たす学術的な探求が趣味や娯楽の域を超えた必須の課題となるでしょう。人間は AI に負けないよう、これまで以上に勉強しなければなりません。今はむしろ、人間の創造力が AI 並みに低下してしまうことが心配です。

棟 ほ。

先 ですから、高額所得者から徴収した税金はこうした教育部門へたくさん投資すべきですね。個人も自己研鑽のためにそうしたお金の使い方を迫られます。

棟 なるほど。『働かざる者、学ぶべし』ですかあ。

脚注。

注 1. アメリカのコンピュータ学者であるレイ・カーツワイルは、二〇〇五年の著作で今後コンピュータの能力が指数関数的に進化し、二〇四五年時点で「技術的特異点(テクノロジカル・シンギュラリティ)・・・コンピュータの非生物的知能が全人類の知能総計を超える」に達すると述べて、世界を驚愕させた。

注 2. 長谷・藤井・人口知能学会編(二〇一六、四二一～四二七頁)には AI が創作したショートショートが紹介されている。

注 3. 「日経 星新一賞」は「人工知能などの応募も可」となっている(『公募ガイド』二〇一八)。

注 4. 『朝日新聞』(二〇一八年十月四日、朝刊、26面)の TV 番組(「新ろんぶくん」)紹介欄を参照。

注 5. 井上(二〇一八 a)一五一～一六〇頁参照。

注 6. PB(プライマリーバランス)とは、国の政策経費を借金(主に、赤字国債)以外の税収で賄える程度のこと。現状では継続的に赤字である。

注 7. 中谷(二〇一六)参照

引用・参考文献。

『朝日新聞』二〇一八年十月四日、二〇二〇年一月一四日、朝刊。

新井紀子(二〇一八)「AIで失われる仕事「格差どう修正」深まらぬ議論」

『朝日新聞』十月十七日、朝刊。

炸刈湯葉(二〇一八)『未来職安』双葉社。

(株)公募ガイド社(二〇一八)「文芸」『公募ガイド』十月号。

井上智洋(二〇一八 a)「AI時代の新・ベーシックインカム論」光文社新書。

井上智洋(二〇一八 b)「2030年 人の仕事が消えていく」『朝日新聞』

八月一四日、朝刊。

佐藤理史(二〇一六)『コンピュータが小説を書く日——AI作家に「賞」

は取れるか』日本経済新聞社。

ジョン・ブロックマン編(菅村雅信訳)(二〇二〇)『動物と機械から離れて』

新潮社。

世界思想社(二〇一七)『世界思想 特集 人口知能』春号、通巻第四十四号。

瀨名秀明(二〇二〇)『ブロック生命体』新潮社。

中谷二郎(二〇一六)『意思を持ち始めるロボット』ベスト新書。

長谷敏司、藤井太洋ほか、人口知能学会編(二〇一六)『AIと人類は共存

できるか? 人口知能SFアンソロジー』早川書房。

堀籠俊材(二〇二〇)「AIブーム 光と影」『朝日新聞』一月十三日、朝刊。

レイ・カーツワイル(井上健監訳)(二〇〇七)『ポスト・ヒューマンの誕生

——コンピュータが人類の知性を超えるとき』日本放送出版協会。

The Asahi Shinbun (2018) 「テクノロジーの世紀」GLOBE, October, No. 210, p.05, pp.09-11.

